

風 韻

四十周年記念号

第13号

(一九七三年度)

神戸大学風韻会

風 韻 第 1 3 号 目 次

- ◎ 神戸大学風韻会四十周年を祝して 会長 荒川 祐吉 1
 ◎ 謡 は 人 な り 顧問 木村 邦夫 3
 ◎ 四十周年特集

生 囀 り 謡	昭 9 年卒	藤川 高	4
私 と 風 韻 会	昭 11 年卒	米花 稔	5
私 の 謡 曲 歴	昭 11 年卒	浅井 啓三	5
風 韻 会 の 思 い 出	昭 19 年卒	高岡 幸彦	6
懐 想	昭 28 年卒	小林 悦夫	8
風 韻 会 現 状	編 集 部		9

- ◎ 四十周年記念謡会番組 10

◎ 自由投稿

う し ろ 姿	P 2 2	三崎 典子	12
気 ま ま な 想 い	P 2 3	藤枝 聡司	12
ひ と り 言		純 久	13
転 落 の 世 界		黒 博之	14
安 達 原 と ギ ョ ー ザ	T 2 1	赤木 康雄	15
卒 業 だ っ て さ	J 2 1	木村富士夫	15
美 意 識 と 世 阿 弥	S 2 1	下田美保子	16
井 筒 と 湯 豆 腐	T 2 1	志智 敏一	18

◎ 四十七年度活動報告 20

一 年 を ふ り 返 っ て	B 2 2	山口 剛	20
文 化 総 部 活 動 報 告	P 2 2	横山 博江	20
学 連 に 出 て	P 2 2	加藤美千代	21
決 算 報 告	会 計		22

◎ あしあと 昭和47年度 23

◎ 幹事長就任にあたって B 2 3 浦田理一郎 24

◎ 新 役 員 紹 介 24

◎ 名 簿 変 更 通 知 25

◎ 学 生 部 員 名 簿 25

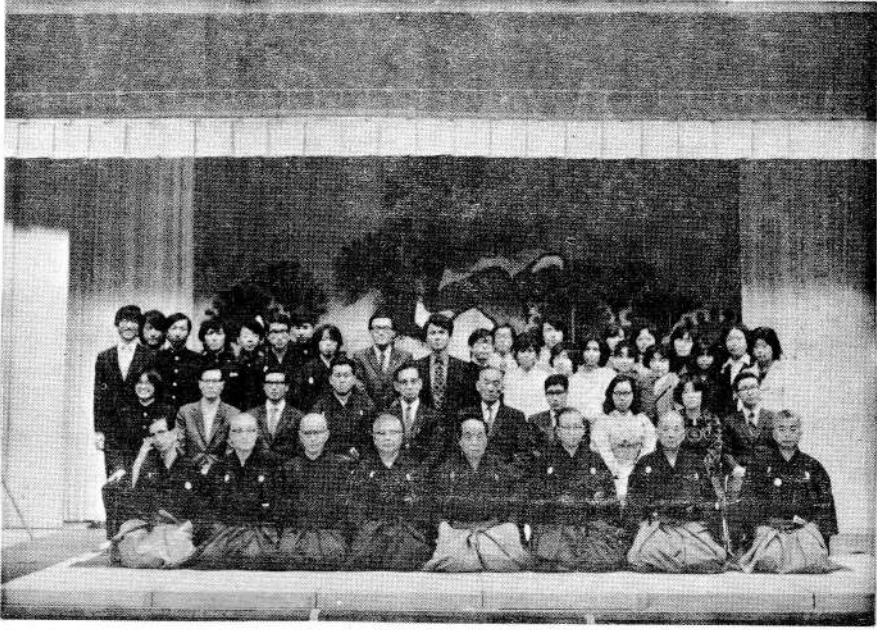
◎ 編 集 後 記 27



羽衣和合舞……宇治正夫

神戸能楽殿竣工祝賀能

昭和47年5月 於神戸能楽殿



40周年記念懇会（昭和47年11月19日学生会館）



春 合 宿（於 余呉）

神戸大学風韻会

四十周年を祝して

会長 荒川 祐吉

昭和四十七年は、わが神戸大学風韻会が、藤井茂先生、国重猛先輩らの御尽力で、宇治正夫先生の御指導によって発足してから、丁度四十年目に当るめでたい年でした。この年宇治先生は、宇治風韻会創立五十五周年の記念も祝われ、本当に意義の深い年であったといってもよいでしょう。ひと口に五十五年とか四十年とかいいますが、これは筆舌につくしがたい多彩な内容を持った歴史の過程であります。単に物理的に何年という時間が経過したといったようなものではないでしょう。長い年月の経過それ自体に意味があるのではなく、その年月の間に、われわれ風韻会の会員として、又先輩として、或は関係者として、関り合いを持ち、宇治先生に統合された形で、それぞれが、自らの生活の充実を求めつつ、会の発展のために多彩な努力を積み重ねてきた、その成果の蓄積と、その過程自体に、大きな重みがあるのです。これこそが歴史の重みであり伝統の意義であると思います。われわれが人間である限り、われわれは過去の歴史によって規定されると共に、自ら歴史をつくる担い手と

しての役割を、われわれ個々人の意志と関りなく負わされていきます。風韻会は、いわば大学の一つのサークルないしクラブではありますが、しかし、その歴史は、国家の歴史と同じ価値を持っているのです。私達は四十周年を経験して、この歴史を継承し、更に創造的な未来史をつくりあげていく責任を痛感しないわけにはまいりません。

それなら、風韻会の歴史の真髄とは一体何なのでしょう。私自身は学生時代の正式会員ではありません。むしろ宇治先生の社中の一員であり、たまたま神戸大学に職を奉じているものにすぎないのであります。それゆえ、このような問いかけに確信を持って答える資格はありません。しかし、私なりの考えを申し述べらば、それは、宇治先生の御人格によって陶冶された、そして謡曲・仕舞の稽古を媒介とする、参加者各人の自己形成・充実の場であったということではないでしょうか。そしてその中心にあったものは、昔風にいえば、知行合一の精神であり、現代風にいえば、アンダスタンディングと

マスターとの統合であったと思うのです。

話題を外らせて恐縮ですが、現在の学生諸君は、戦後のいわゆる民主教育を受け、そして論理先行、知育優先のムードの中で育ってきています。それはいわばアンダスタンディング（理解）の教育に止まっています。しかし、われわれが、問題（あらゆる種類の、例えば人生の意義の確認から、乗物にのるかのらないかといった日常の問題まで）を解こうとするとき、理解だけでは、まず殆どの問題は解けません。理解だけ、解釈だけではダメなのです。理解はさらにマスター（修得）にまで進まなければ、理解そのものも十分とは言えないのです。修得してはじめて問題が解ける。このことは、専門教育を中心とする大学の学部 of 正規の教育課程では十分に達成できません。この修得の大切なこと、これを真に体得し、納得する機会を与えてくれるのは、クラブ活動でしょう。このことが、特に重要になるのは、われわれのようなクラブではないでしょうか。お能を拝見にいつても、いろいろ理屈や解釈を知っているだけでも、それはそれなりに鑑賞出来、感銘を得ることができるとも、しかし、その曲の稽古に苦心鍛錬を重ねれば重ねるほど、そのことによって得られる感銘は限りなく奥深いものになるはずで、端的に言って、われわれの世界では、アンダスタンディングとマスターとは定説不可分であり、相互に深め合う効果を持つものなのです。何だか、書いている本人が恥かしくなるような口はばつたいことを書きましたが、私のこの議論の意味、わかって頂けるでしょうか。かつて、私がお稽古を、現在の卓球部の部室のところにあった柚木元学長宅ではじめたころ、宇治先生から、初心者は節よりも姿

勢と発声を堂々と謡うこと、細部の技巧上の注意は、それがわかる修得レベルに達するまでは、本当の効果を持ち得ないということを、しばしば御指摘されました。私のような未熟者に先生のお言葉のいみが十分理解できるかどうかは疑問ですが、恐らく右の私の議論に似たようなお考えがあったのではないかと推察されます。

それはともかく、私自身は、このような、知行一致、理解と修得の相互作用の究極を媒介として、はじめて真の、その名に値する「創造」が可能になると思っています。風韻会の会員諸氏は、当然このようなことは自明の理としておられることですが、四十周年を一つの区切りとして、この基本精神の確認と、それに基く、新たな段階への飛躍が達成されることを心から念願する次第です。

洋菓子とパン ケルン

本社 神戸市東灘区御影中町1丁目7の25
電話 神戸 (078)(841)9504 番前
阪神御影支店 阪神御影駅
電話 神戸 (078)(851)7651 番前
阪急夙川支店 阪急夙川駅
電話 西宮 (0798)(34)2121 番前
阪急岡本南支店 阪急岡本駅
電話 神戸 (078)(451)0064 番前
六甲生協前店 神戸市東灘区森後町2丁目高橋ビル
電話 神戸 (078)(841)3933 番

ケンタッキーフライドチキン

◀メニュー▶

スナック……………290円
ランチ……………400円
ディナー……………450円

阪神御影駅前

謡　　は　　人　　也

教育学部顧問　木　村　邦　夫

習った者なら誰でも氣のつくことだと思いが、謡は頭でうたうものでも、喉でうたうものでもない。謡は腹でうたうものである。換言すれば心を心でうたうものといえる。したがってその腹とか心の出来た人の謡は実に味わい深く、うま味のあるものであってその節々にその人柄がにじみ出ていることを見のがすわけにはいけない。

最近学生諸君の謡や能をよく見たり聞いたりする機会が多いのであるが、皆非常に上手である。それは指導に当られる先生方も、又指導を受ける側も大へん熱心である結果に他ならない。無本でしかも堂々たる謡い振りには頭の下る思いがする。その頭の下るといのは、短い期間によくもここまで上達したということにある。一口に言って学生諸君の謡は大へん上手である。上手とは楽典をよく理解し、先生に教えられた通り法にかなった謡い方をしているという意味であるが、まだそこには何か不十分なものあることを感じるのである。それはさきに述べた深さとか味わいとかに欠けているものがあるためではないかと考えるのである。謡そのものの理解は、

さ程困難なものとは思わないが、それを体感として受けとめ、更にそれを表現することになると、若い人に限らず何十年稽古をつんでも、容易な業ではあるまい。要するにそれは人間としての自己を練磨することによってのみ到達する境地だと思ふ。ところで、このような自己完成を待っているといつまでたつても謡を始める機会さえ永久にやって来ない。そこで考えることは謡いつつ人間性を磨き、自己を高めつつ（他のあらゆる方向から）謡をうたい両方相まって一歩一歩向上の道を辿って行くことである。

若い人の中にも上手な人は多い。老人（キャリヤの長い人）の中にもうまい人は少い。更に趣味としての謡曲を通じて人間性の向上に努め、何年か先にでも「謡は人也」との実証を感得するような幸福な人間にはなり得ないということを充分知りつつも、猶遅々たる歩みを続けて行きたいと思ふのである。

四十周年特集

生 嚙 り 謡

昭和九年卒 藤 川 高

私は神戸大学風韻会のO・Bの一員たるの名誉を忝くしているが、顧みて誠に恥しい。私の謡は生嚙り謡と言うべきであろう。

私は昭和三年春、上筒井の母校の門をくぐった。美しい桜のトンネルを通り、静かな図書館に憩い、そして西門を出て、気ものどやかに学生会館に立ち寄った日々は、昨日のように思われ、又霞を隔てた模糊とした憶い出の中にある。

私は今、書架から数冊の謡本をとり出してみた。そしてその中から更に桜川をとって机の上においてみた。手垢にいささは汚れているが、四十年の歳月を僕と共に経てきた本とは見えぬ若々しさを保っている。これは紛れもなく、私が憧れの筒井台に入り、そして真執と自由の風に触れ、満ち足りた青春の一日、学生会館で始めて謡曲に縁を結んだ時に与えられた謡本そのものである。

先輩、藤井茂兄に誘われたのであつたらうか、誰に誘われたので

あろうか今は莫として覚えていないが、私には初恋をした時のようにその習い初め、謡い初めした時の模様が、折にふれ眼に浮んでくるのである。

私は時折り、土浦、筑波の方を訪れることがある。その往き返り、車中から桜川を懐しく見ながら通りすぎ、そして上筒井の往時を偲んで小さく口ずさむ――

“筑波山。このもかもの花盛。このもかもの花盛。……嵐も浮む花の波。桜川にも着きにけり。桜川にも着きにけり。”

私の仕事の上の親しい間がらで、近年本業を卒え、好んで謡、仕舞の先生になった友人が二人いる。お弟子の紹介その他で些さかお手伝もさせて貰っているが、お二人とも門前市をなすの盛況である。生来無精者で、移り気多い私は、生嚙りではあるが謡を通じてあれこれと温い交らいを忝くしていることを心から喜んでゐる次第である。
(四八、一、七)

風韻会四十年の歴史を社会情勢の移り変わりと共に、年代を追ってゆきながら見てみたいと思います。資料不足のため正確を欠く所もあると思います。先輩方の御助言を、お願いします。

昭和7年 神戸大学風韻会発足、商大専門部昇格

五・一五事件、上海事件の発生

昭和8年 関西学生連合謡曲会（大阪市大、関大、関学、神大）の活動盛ん。学生能楽連盟の草分け。

私と風韻会

昭和十一年卒 米花 稔

私は、能楽・文楽・歌舞伎から、ミュージカル、アチャラカまでおよそ鑑賞するものみるものは、ずい分すきである。残念ながら参加することに意義があるという分野は、謡曲をのぞいて、なんにもない。いまでも大学の風韻会に、年に一・二度の参加の機会があたえられることをうれしく思っている。

宇治先生に手ほどきをうけたのは、いまから丁度四十年前、昭和八年春大学入学とともに風韻会に入ったことにはじまる。なにかに消極的であった自分が、思いきって入会したのは、父が随分熱心であったからである。当時の上筒井の学舎近くの寮での宇治先生による集合練習から、雲中小学校前すこしおりとところの先生宅でのいこ、市内にいくつかあった舞台での大学風韻会、あるいは社中の会、講堂での数十番ならべられた仕舞大会など、いままなお印象深い。お蔭で、父が安宅の盛大なひらきをした翌昭和十年かりそめの病で亡くなったあとの父の属する別の社中の姫路の公会堂での追善会にも、なんとか天鼓のシテをつとめることができたことをいまま有難く思っている。

大学を出てからも数年宇治先生にお世話になったものの当時勤めが大阪であったことかからいつしか御無沙汰し、大学に帰って戦後三年藤井茂先生のすすめで、そのお宅などで再び宇治先生にお教え

をうけたものの、日常の多忙なまま、そのままなまけてしまつて今日に至っている。

それにかかわらず、宇治先生のつねにかわらぬ御厚情によって、今日まで、永いつながりをもたせてもらつて、昨秋は十一月学生会館での四十周年記念謡会に、そして十月には湊川神社の新しい能楽堂で、風韻会五十五周年記念謡会にも末席につらなることのできる光栄を得たことを心から感謝しています。

今後とも、ときたまながらのつたない謡いを通じてのいろいろのつながりを大切にしたいと思つています。私事をかきつらねて失礼しましたが、宇治先生の立派なお人柄に心から尊敬をし、その一層の御健祥を念願し、神戸大学風韻会の一層の発展を心から祈ります。

私の謡曲歴

昭和十一年卒 浅井啓三

昭和八年、神戸大学入学間もなく謡曲部に入り、卒業まで宇治先生に習つた。動機は観世左近師のレコードを聞き、その名調子に魅せられたことになる。また修業だと思つて、卒業までかなり熱心に稽古にはげんだ。現在の会社にも謡曲部はあつたが、あまり熱心ではなかつた。

戦争が終り、軍隊（シベリア捕虜）より帰つてから、会社の謡曲部で熱心に習つた。準九番、九番習いのも終えたが、数年に亘る先輩同僚と楽しく趣味にはげんだことが思い出される。東京に転勤して

からも数年謡ったが、仕事の都合などで何時の間にか途絶えて、こ
こ十余年、あまり謡ったことがない。同好の友の停年退職などで先
輩、友人とわかれたことも理由であろう。

最近もあまり謡わないが、稀に長唄をやって見たり、すきな曲を
謡うこともないではない。健康のために、時々謡うのがよいとは思
うのだが。

昭和9年 プロ野球結成(巨人軍)室戸台風来襲。

上筒井より六甲台へ学舎移転。

10年 天皇機関説問題化。

11年 二・二六事件。

12年 日華事変(蘆溝橋事件)

13年 国家総動員法成立。教育の軍国主義化進む。

14年 ノモンハン事件。戦争拡大の道をたどる。

観世左近没す。四十五才。

15年 神戸商大予科設置。初世観世喜之没す。五十五才。

日独伊三国軍事同盟。

16年 太平洋戦争突入。小学校を国民学校と改称。

謡の稽古、自然に中止となる。

17年 ミッドウェー海戦。第一次ソロモン海戦。

学生の大部分出征。学徒動員令。

18年 アッツ島玉砕。徴兵適令十九才に繰下げ。

出征謡会盛に。

風韻会の思い出

昭和十九年卒 高岡 幸彦

私が風韻会に入ったのは商大へ入ってしばらくしてから、私が弓
をやっておりましたので弓道部の先輩、同輩に推められて入ったの
が動機でした。当時は大東亜戦争も愈々激しさを加え私達も軍隊へ
入る事は必至の状況でしたので一つには軍隊で号令をかける時の声
の鍛練をしておかなくてはならないという下心もありました。その
頃弓道部には一年先輩に現在東京海上に勤務しておられる諫山勝保
氏が居られ、又同期には一昨年の凌霜東西合同素謡会、又昨年の藤
井先生送別素謡会で一緒に「弱法師」「藤戸」を謡った小杉岩蔵君
が居り、弓の練習が終ってから、時々稽古をつけて貰ったものでし
た。そして誘われる儘に私達弓道部の面々山崎甲子士君、三木金治
君と私の三人が宇治先生の門下に入れて頂きました。そして学校の
合同練習の他に先生のお宅へ向って、お稽古をする様になりました。
先生のお宅は当時春日道の 駅を降りて少々登った処にあり、二階
がお稽古場で一階はお茶屋さんでした。それで成程宇治先生は宇治
の御出身なのかな等と思っていた次第です。私達の同期には前記四
人の他松田幸次郎君、山口守常君がおりました。その中、山口君は昨
年急逝され非常に淋しい思いをしておりますが、この謡の友は今も
一年一度位集って旧交を暖めております。

宇治先生の社中に入れて頂いて忘れられない事は、私共が学徒動

員で召集されて行く時に楠寺で催して頂いた送別の素謡会でした。あの物資の不足の時にどうしてこんな都合をして下さったのか判らないのですが、お酒やお赤飯等当時の私共としては目を眩る様な御馳走でした。そして私は舟弁慶のシテをさせて頂いたのですが古手の小杉君、松田君は特別に「鉢 木」を番囃子で披かせて貰ったのでした。然し番囃子等は何分不慣れの為か、出るべき処を出ないで囃子方に督促され皆笑い出してしまふ様な一こまもあり、今も目の前に見える様な気がします。又先生の社中に哲学の佐野先生の御一家が居られ、確か奥様がドイツの方で可愛い色白のお嬢さんが仕舞をよく舞われたのも忘れぬ思い出です。

先生は御稽古の中で何時も「和」の精神を強調され、私共はお茶の経験は無いのですが何か謡とお茶と「気合」「和」という精神に於て相通ずるものがある様な気がしております。謡もお茶も昔武士が嗜んだというのはこの様な処にあつたのではないかと思ひます。又先生のお稽古で特に記憶に残っている事は、ある時我々の仲間が今日は疲れたからお稽古を休みたいと申しました時、謡はそういう時こそ疲れを愈すものでなくてはならないと謂われ、現在私も仕事で疲れた時は謡によつて本当に救われる事がございます。

又教えられる方法も非常に合理的で謡の中に濁音が出てきた時、鼻にかけるのを、例えば我々が神戸商業大学という時、商業のゴの字大学のガの字は自然に鼻にかかっているでしょう。謡だつて同じ事で文章の途中に出てきた濁音は鼻にかかるのですよと教えられました。爾来三十年私はその御教えを忘れず守っております。

最後に長年風韻会の会長をされた藤井先生のお謡を初めて拝聴し

たのは、謡を始めて間もない頃で小杉君に連れられて六甲の国道沿いの或るお家で夕景より素謡会があり、そこに行つた時で灯火管制下の薄暗い部屋で先生の「井筒」を聞いて難かしい記号の一杯ついている曲をその記号通り謡われる先生の謡に唯々感銘して帰つた事を覚えております。

昭和19年 神戸経済大学と改称。

空襲激化。学童疎開。

20年 敗戦。広島・長崎の原爆。

21年 初世梅若万三郎没。七十八才。

22年 新憲法施行。六三三制実施。

23年 風韻会活動再開、軌道に乗り始める。

極東軍事裁判最終判決。

24年 新制神戸大学発足。六甲台三学部の設置。

三鷹事件。松川事件。

25年 神戸女子薬学専門学校との合同卒業謡会。

朝鮮動乱始まる。金閣寺焼失。

26年 初世金剛殿没。六十五才。

サンフランシスコ講和条約調印。

27年 風韻会二十周年。

メーデー事件。

28年 神戸大学創立五十周年記念謡曲大会。

関西学生能楽連盟九校。

懷 想

昭和二十八年卒 小林悦夫

過ぎ去った二十年、六甲学舎も環境もさぞ変わった事でしょう。ダラダラ坂を登りつめ正門に立つて天と地が一体となった学舎を見ながらの学生生活も夢のような気がします。風韻会なる同好会に案内されました所は、正門左の古びた小さな木造建でした。当時にして思えば結構な建物だったでしょう。只障子は破れていましたか？

そこには囲碁・将棋の連中も同居していまして講義が終るとさんさんご集まって仲々盛んだったものです。御蔭で社会に出て囲碁将棋のおつき合いが出来ております。謡曲は全くの初歩でしたが、その言葉・文章の味には格別の興味がありません。然し声を出して謡う事の恥かしさは、誰しも経験されたように骨身にしみる思いでした。あの音痴にも似て似つかぬ変声は周囲の者だけではなく自身も哄笑したものです。週何回かの練習も宇治先生の懇切丁寧な御指導にもかかわらず、一向に上達しなかつた責務に呵まれたものです。

しかし今は亡き柚木先生をはじめ諸先生方との合同の日は、特に緊張感を覚え、芸の深さを痛感させられ、励みにさせて頂いたものです。未熟者乍らも立派な大槻能楽堂や湊川神社での発表会も練習の成果を現わす良い機会でもありました。或る時、関西学生能楽連盟の会で女性の方が四十五分の正座に足をしばれさせ楽屋に這って

帰る一幕を胸の奥にはほえみと共に納めております。話せばつきぬ事乍ら、今も下手な謡の一節を断片的に口吟んでおります。

昭和29年 ビキニ水爆被災事件。

30年 学連コンクール始まる。

31年 三大学交歓謡会開催。宝生会と合同で。

32年 学連コンクール二位入賞。

33年 一万円札発行。狩野川台風。

34年 皇太子結婚。安保論争盛に。

35年 奈良女子大と合同発表会、三年後消滅？神戸女子薬大と

合同発表会、四大学の前身。雑誌「風韻」刊行。

36年 ポストーク一号地球一周。

37年 大学祭園遊会「狸々」開店。風韻会三十周年。

38年 姫路分校での発表会、最後となる。

39年 風韻会鶴甲支部（教養）誕生。東京オリンピック。

40年 第一回秋季発表会。

41年 学連コンクール二位入賞。農学部創設。

42年 教育学部学舎移転。

43年 紛争起る。春合宿中止となる。

44年 神大闘争激化。教養部封鎖。全国的に学園紛争。

ベトナム反戦、安保闘争。

45年 鏡板作製。学生会館での発表会に使用。

学連コンクール廃止。代りに合同能「紅葉狩」

風韻会 現状

現在の風韻会の構成は二十二回生九名、二十三回生三名、二十四回生五名の計十七名である。今年度の新入生の人数如何では二十五名を割るかも知れない。風韻会もひところは五十名もの部員がいたそうであるが、昔の面影はもう見られない。しかし、これでも関西学生能楽連盟の中では多い方なのである。部員数減少により、当然のことながら部費としての収入も減少し、またまた部費の値上げに踏み切らざるを得ないのが実情である。

毎週火・木・土の活動日にも全員がそろふ事はほとんどない。これは部員のうち男子の半数が工学部の学生であったということも影響しているようである。他にも活動に活気のない理由はあるようだが。昨年一年で数人の部員が脱落していった事は残念だ。

個々のクラブ員が、現状を把握した上で活気のある活動を行なうようにしてもらいたいし、しなくてはならないと思う。五月には東京で三大学の謡曲大会、七月には四大学の当番校など夏休み前は多忙を極めるであろう。

そんな中で風韻会のあり方、大学のクラブのあり方、個々人のクラブへの取りくみ方等、模索中であるというのが風韻会の現状であるろうか。先輩方の暖かい御支援をお願いします。(編集部・純)



長崎屋 御影店

811-1151代

登録 商標



御菓子司
常盤堂

神戸市東灘区御影中町

(国道中御影電停上ル)

電話神戸 (851)4677番

コーヒー、紅茶とフレッシュなケーキ等
バラエティ豊かなおもてなしを致します

Morozoff
CHOCOLATE SHOP

モロゾフセンター街ショップ
三宮サンブラザビル1F

雀 荘

六甲クラブ

市バス六甲口から南へ30m 下る

(821) 2689

昭和四十七年十一月十九日(日)午前九時半始

灘区六甲台町

於神戸大学学生会館

六F
ホール

神戸大学風韻会

四十周年記念謡会

鶴 素 謡
亀 加藤久佳

仕 舞

草子洗小町 森 章子
羽衣キリ 山崎 喜美子
杜若 柴田 万利子

斑 女 伊沢幸嗣

連 吟

富士太鼓
合浦 山崎 喜美子
田村 木村 升治
小督 加藤 久佳

藤 枝 藤 枝 藤 枝
浦 田 理 一郎

千手 藤井 荒川 裕吉 米花 稔

舞 囉 子

忠 度 木村 富士夫 若林 与左衛門 若林 秀雄

舟 弁慶 赤木 康雄 川越 治子 若林 秀雄

松 風 三崎 典子 川越 治子 若林 秀雄

融 横山 博江 川越 治子 若林 秀雄

昼 食

紅葉狩 木村 升治 加藤 久佳

井筒 志岐 佳代 加藤 美千代

鉄輪 山口 剛 高砂 下田 美保子

う し ろ 姿

P 22 三崎典子

忘却という文字に いじめられて

過ぎ去ってしまった 過去がいとして

何でもなかったはずの 今までの「さようなら」が

私の心の中で チョコレート色に固まる

白いスタンドの光の中 ピンクのマニキュアが淋しくて

青いインクをつぶやきは「再会」という文字を重ねる

「さようなら」は いつも正しいしろ姿

伏せた私の心の中に重たい五つのひらがなの意味

忘却があるから 幸せなの？

忘却があるから 悲しいの？

思い出は凍てついて

あの夜のオリオン座に なってしまったけれど

私は忘れない 暖め合った心と心を!!

さようならの言葉は悲しくても

こんにちのはのほほ笑みがあれば……

去り行くあなたの幸せを祈って

久遠の灯 永遠に忘れじの友!!

気ままな想い

P 23 藤枝聡司

何にも言わずにやってくる月日の中を

やっぱり僕は

腕をくんで歩いているのです。

今はそうしていたいのです

狭い世界にしばらくられるのは嫌いだ

旅はやっぱり僕の人生

誰かが言いました。

あなたも寂しいかたね、と

そんな人にも僕はただ

小さなほほえみを返してあげたいのです

旅はすべての瞬間が始まりであって

永遠に終末を知らないみたい

でも

きれいな夕焼け空を見るたびに思うのです

もう帰れないんだなって……

ひとり言

純 久

憎まれて憎まれて強くなる、とある本に書いてありました。それが本当なら私はもつともつと憎まれなくてはなりません。だって少しも強くなつたと感じませんから。友人がみな怠けて遊んでいる時自分一人だけ勉強するのは、てれくさくて、おそろしくて、とてもだめだから、ちつとも遊びたくなくても自分も仲間入りして遊ぶ。そして結局、何もしないまま卒業なんです。私は自分がなぜ生きていなければならぬのか、それが全然わからないのです。人間には生きる権利があると同様に、死ぬる権利もある筈です。でも人は死ぬなつて言うんです。忘却は人間の救いである。その通りかも知れません。全てを忘れ去れば苦惱もなくなるでしょうから。

わがままな駄々っ子のように言われてきた私の、裏の苦悩を、一たい幾人知っていたらう。一人として知っていたものがいなくてもそれに満足を感じる事。それが大切なのでしょうか。

カンニングしてもかまわないから、落第だけはせぬ事。カンニングは不名誉に非ず。落第こそは敗北の基と心掛ける事。でもカンニングをやつて卒業。落第はしなかつたのに、なぜか空しい気がする。

飲酒、ひとりの飲酒は妄想の発端、飲めども飲めども気は晴れず真夜中、電話のダイヤルを回しながら途中で止めちまう。誰かに、むしろように話したくなつて星を仰いで散歩に出ることも。でも私は

人間をきらいです。いいえ、こわいのです。言いたくもない挨拶を言っていると、自分ほどの嘘つきは他にはいないような苦しい気持ちになるんです。そして後で、きまつて情なくなるんです。

本当に愛しているのだから黙っているというのは、たいへんな頑固なひとりよがりだ。好きと口に出して言う事は、恥ずかしい。けれども、その恥ずかしさに眼をつぶつて、怒涛に飛び込む思いで愛の言葉を叫ぶところに、愛情の実体があるのだ。黙つていられるのはエゴイズムだ。あとあとの責任に、おびえているのだ。そんなものが愛情と言えるか。でも相手の事を考えた時、自分に果して相手を幸せにできるかどうかそれをいつも考えるんです。それでも、やはり飛び込まなくてはいけないのでしょうか。今だに思っているんです。白いドレスを着た白雪姫が、どこかの窓辺に立っているって。愛しているのは、恥ずかしい事です。また、愛されているのも何だかさまりの悪い事です。だから、どんなに深く愛し合つても、なかなか好きだとは言えないものです。それを無理に叫ばせようとするのは残酷です。

私が古い道徳や古い慣習等を全然無視した冷たい男だと思つている人が多いようですが、事実は全くその反対だ。けれども、私は弱い性格なのでその弱さというものだけは認めなければならぬと思つているのです。また人と議論することも私にはできない、これも自分の弱さといつてもいいでしょう。

純情、そんなものはないんですよ。そういう姿を見ると、たいいてい演技だ。演技でなければ、阿呆である。しかし素直というのは心底から出てくるものだ。でもそんな人には、めつたにお目にかかれ

転落の世界

黒 博 之

るものではない。私は自分を純情だと思っている。それは演技だ。計算した上で純情に見せる。単純な人々はそれで欺かれる。道化の仮面を脱ぎ捨てることなく、これまで来ました。道化は、自分の人間に対する最後の求愛でした。自分は、人間を極度に恐れていながら、それでいて、人間をどうしても思い切れなかったのです。そして私は、この道化の一線でわずかに人間につながる事ができたのでした。おもてでは、絶えず笑顔をつくりながらも、内心は必死の、それこそ油汗流してのサービスでした。でも、そんな仮面を脱ぎ捨てた事も一度か二度ありました。いや脱ぎ捨てようと思っただけだったのかも知れません。だから今、何もなかったなあって、わかり合う事もなかったし、ただ一さいは過ぎて行きます。

誰か言ったんです。何げなく「淋しい男だな。」って。その時ガーンと一発やられたように感じたんです。仮面の奥底まで見通せられたいような、そんな気がしたんです。

私は自分に零落を感じ、敗者を意識する時、必ずあの人の顔を思い出します。そして生きて行こうと思うのです。あの人の弱さが、かえって私に生きて行こうという希望を与えるのです。

誰か私の墓碑に、次のような一句をきざんでくれる人はいないか。「かれは、人を喜ばせるのが、何よりも好きであった。しかし、喜ぶ人はいなかった!」

あの人の文章を借りて最後まで、仮面を脱ぎ捨てずに来てしまった。そしてその悔いが、あふれ出す前にやめることにしよう。長い長いひとり言。

男の幸福が「われ欲す」にあるとすれば、女の幸福は「彼を欲す」にあるという。俺の嫌いなものは、人道主義・平等主義・民主主義、愛するものは創造。

心の中は空虚。善人の心に手を差し入れたなら、昼間の明るさには手を差し出すように、綺麗な手が背後に現れる。それは見えない。抜き出す手は物語る。それは善。

心の中は闇。俺の心に手を差し入れたなら、地獄の淵に手を差し出すように、黒い手が背後に現れる。それは見えない。抜き出す手は物語る。それは悪……。

酒類商 みどりや

神戸市灘区水車新田
(市バス神戸大学停留所前)
TEL.(861)0535

安達原とギョーザ

T 21 赤木 康雄

春合宿の二年生の練習曲には、常に安達原が選ばれます。鬼の出でくる曲で謡より能として見るほうが、私にはおもしろいのです。この曲の度に思いたす話をします。

多くの友人で、酒を飲むときに、必ずビールを頼むのがあります。彼は他人によくおごってくれますが、あまり高い店には連れて行ってくれません。そして、すぐ「次の店行こ！」と誘ってくれます。彼、ハシゴのわりには決して高い所へは登らないのです。

彼が、例の如く安い店でビール又ビールと飲んでいるうちにギョーザが食べたくなったのです。彼は、誰もが皆知っている、ギョーザの店へと足を運んだのです。彼、いせいよく、「ギョーザ二人前レバいため、ビール」と叫ぶと、トイレを探します。これはビール飲みの常であります。「おねえちゃん、トイレどこ？」と聞き、トイレらしき扉のノブを開こうとしたとき、アンパンみたいな帽子をかぶった、チーフらしき人が言うのです。パツとあらわれて、扉を押さえながら「お客さん、ここはトイレじゃありません。トイレはあつち！」と言われた彼は「あつ、そう。」と思い、ちゃんとトイレで小用を済ませました。そしてテーブルへ戻り、ギョーザとレバいためビールを飲みます。そのうち「じゃあ、あの扉は何かな。」と考えだします。ちらっと、あの扉を見れば、アンパン帽の兄ちゃん

が前に立ち、ジロツとこつちを見るのです。その目には、或る殺気が感じられたので、わざとニコツと笑ってやります。それでも兄ちゃんは笑ってくれませんでした。また、ビールを飲みます。やがてギョーザもレバいたためもなくなり、けちくさくも最後の一滴までビールを飲みほすと「おあいそ」と叫ぶのです。ギョーザを食って「おあいそ」ですかね。勘定を済ませて、またトイレへ行きたくなりました。ふと見るとあの扉には兄ちゃんが立ってません。彼は、小便したさから変な勇気が出て、その扉をあけてみました。すると、そこには猫の骨が、たくさんたくさんあったのです。驚きました。「これが、ギョーザの肉だったのか。」吐気がしました。けれど吐いては、もつたいたい、ゲツプを又飲みこんで、店を出ました。外のゴミ箱の傍で、彼の肩をたたく者がいたので、「ボン」「ドキッ」として見ると、あのアンパン帽の兄ちゃんです。「お客さん、見たんですね」と言い、小さな笑顔で勘定の五八十円を返してくれました。するどく、そして寂しそうな目でにらみながら。ふと藤子不二夫の漫画のにおいがしました。

卒業だつてさ

J 21 木村 富士夫

四年の歳月が過ぎた。その間、何があったのだろうか。研究会なるものがまがりなりに発足した。またがり刷りではあるが同人誌のようなものも発行することもできた。満足できる形ではないが私

がやりたいと思っていたことの半分程は何とか実現した。いずれそのうち、うやむやに消え去るものであらうとは思ふが、とにかく実行できた。それだけが嬉しい。しかしそのことで幹事学年の人達に多大の迷惑をかけてしまった。とても感謝している。

雑誌「観世」に偶然だが写真も載ったし、舞囃子も何とかやり終えることができた。ほとんどの行事に参加することもできたし、本当に四年が矢のように過ぎてしまった。けれども、私の心に何か残ったというものが全然ないのはどうしてなのだろう。やりたい事をやったのに、この不満足感、空虚さは一体なぜなのだろうか。私自身の常を感じるもの足りなさがそうさせるのだろうか。わがままなのだろうか、ぜいたくなのだろうか。あまりに多くを期待しすぎたのだろうか。現状で満足しているべきなのだろうか。

でも今、すべてが終わった。いろいろとあった事も思い出としてのみ残ろうとしている。風韻会に入ったのは四年前の十月だった。その当時は、紛争による封鎖が権力の手により強行解除された後で、学内には余煙がくすぶっていた。そういう状態に入ったクラブは私にとって空白を埋める意味があった。しかしその空白は最後まで空白のままであった。少しは小さくなったけれど。無駄な四年間だったけど良い四年間であった。そう感じる事ができれば、それでいいのではないかと、言われた。それでいいのかも知れない。四年の年月は元に戻すことはできないけれど、そこから新しい生活を生み出すことはできる。それで満足しておこう。謡と酒と音楽と、それだけあればいいのかな。何か足りないって。それは私には縁のないものなんです。あなたはどうですか。

美意識と世阿弥について

S 21 下 田 美保子

一般的に言つて、一人であることを知った人間の求めるものは美である場合が多い。孤独である自己の存在を美と融合することによってかろうじて生き、その報酬として美のモラルによってがんにじめに自己を縛りつけ、絶えず矛盾のほこ先を自己に向けながら生きてゆく。そういう人間の悲しさは美そのもののもつ哀しさに帰因しているのではないかと思う。もし美を絶対化し、それに酔いしれて生きることができないなら、ある意味で彼は幸せである。しかし美そのものの把握のしかた自体に問題があり、いつまでそれが続くかはわからないのである。そしてそれを絶対化することは、自分自身を絶対化するという独断性を生み出している。ここに人間自身の持つ無常性がある。更に感覚的美はある悲しさを持つている。それは感覚的世界のみにしかありえない主体の悲しさといおうか、意識とともに消え去るはかなさといおうか、そういうものである。そしてその哀しさの故に、内的世界に取り入れられた美は倫理性と強く結びつけられながら外界へ働きかけるのである。それは人間の内面存在を外界から分離しているところの繊細な膜の振動に似ている。そしてその倫理性が何らかの手段として表現されたものが芸術と呼べるものである。特に最近はその傾向が強く、芸術≡生き方という観すらある。

ところで、世阿弥が我々に訴えようとしたものは何であったのだろうか。確かに彼は己の倫理性つまり生き方の問題について我々に語ろうとはしなかった。しかし彼の二百曲の能にこめられた彼の存在はぶきみなほど巨大なもののように思えてくる。いかなる場合もさめきつた冷静なまなこがその奥で光っている。彼はきつと倫理性の芸術における重要性など認めていなかったに違いない。というよりそういう意識はなかったのかもしれない。たとえあつたとしても彼は個人の意識というものは相対的なものであり、時代的なものであることを知っていた。彼が感覚的世界にしかあり得ない自己の存在、また変身することによってしか見い出せない存在を室町時代の感覚であらわすことは、彼を室町時代という歴史の一点の単なる存在に終らせてしまう。彼は野心家だった。永遠に生きつづけたかったのかもしれない。

今まで感覚的美のみにかぎってきたが、ここでもっと広く美の定義をなして話を進めたいと思う。

①美即真である。

②真とは絶対的真理であるが故に美は絶対的美である。

我々は真理の一部をかいま見たときある感動を覚える。その感動を一度私のいう生の人間の意識を通して有形無形の対象として表現できる人間を芸術家と呼ぶ。したがって科学者が芸術家たりうることもしばしばあり得る。そして我ら凡人はその対象から受けるものを美と感じるわけであるが、実際にはその背後にとつともなく巨大な美の本体とでも言うべきもの、つまり絶対的美が存在する。もはやそれは美と呼ぶにはふさわしくないかも知れない。有無の二の語も

及ばぬ存在。そういうものを私は真理と呼ぶことにしている。その真理は無次元の広がりを持ちながら我々の四次元空間をはりめぐらしている。ところで果してそういう存在があるのかしらんと思う人は、ある仮説を立てて美へのアプローチをなそうと私はしているのだから、単なる認識論と考えてもらいたい。しかしあえて言うならば、そういう人は人間の歴史の価値も存在意義も認めてはいないのだからと思う。なぜなら人類の遺産の全てはその真理に対するアプローチのしかたであり、方向づけであり、体系化であると思うからである。

今ここでその真理とは何かをうんぬんしても始まらないし、またそういう力もないので、ここでは世阿弥のとらえ方として私の感じるものを述べてみたい。それは我々の四次元空間の一つの座標である時間についてである。現在我々の持っている時間の概念は、永遠の過去から永遠の未来へ一様に横へ無限にのびた連続体であつて、今という瞬間はその一点であるという考え方である。これは古典力学の「絶対的時間」と同じである。川の流れに似ている。ところが井筒・野々宮等の夢幻能における時間は自由に停止し、逆行し、一瞬が無量大にのびてゆく。もはやここでは時間の相対性などは通り越している。時間が横にのびたものではなく、縦に累積されたものはそれは過去・現在・未来を同時に含んでいるもの、強烈にときすまされた情念によって一瞬にいかいまみれる実体、そういう気がする。彼は物理的時間、精神的時間をふまえた上でより高次のこの時の思想と呼ぶべきものを我々に示す。この思想は我々の存在の問題と密接な関係があるわけだが、彼自身自己の存在に関して何らかの

結果を出していたなら、彼は日本で唯一の新実在主義者と思うのである。今後生まれてくるであろう新実在主義への道を、はるか室町時代に世阿弥が達していたなら、彼の存在は今後哲学者として重要な位置を占めるであろう。

井筒と湯豆腐

T 21 志 智 敏 一

「あなたにとってクラブとは何だったのですか。」「思い出を寄せ集めて記念碑を創る、という悪趣味。」「あなたにとってクラブとは何ですか。」「みんなでみんなで作ったかわいいた壇。タンポポの花一輪。見事咲かせた暁には、拍手喝采。涙流して乾杯しよう。」

飲め。先輩のついで酒が飲めないと言うのか。涙浮かべてグツとおつたコップ酒。初めてのコンパ。遠い昔の十二月。ユラユラ揺れるは、頭の上のオリオン座。さようなら、栄養たっぷりのお肉さんや豆腐さん。栄養はあまりないけれど、おいしかったもやしさんや糸ゴンニャクさん。みんなみんな、さようなら。なんて思いながら、酒を飲みすぎて吐くとはこんなに苦しいものか。ウエツ。ゲエツ。ゲボツ。これこそ悪趣味。

盃をスツと口許へ持って行き、ヒラリと飲んでしまう。風の様なしぐさ。その純粋な完成をめざして、四年間酒を飲んできました。その他

一切無し。されど今だ完成せず。

あの山越ゆれば黄金三千。人生、これ栄華のつづら織り。あるいは大臣、重役のレザー張り安楽椅子、の保証。いえいえ、せいたくは申しませぬ。せめて課長、部長の肘掛け椅子でも。エツへへへ。笑い事ではない。タバコくわえて、しかめっ面。後から肩をたたかれても振り返らず。オイ、馴れ馴れしく俺の肩にさわるなよ。クラブってのはもつと敵しいもんだぜ。なんて訳のわからぬキザなセリフ。一度言ってみたい。

ウソ、あなたはいつもそう言ってたくせに。氷の様に冷たい人。そういうあなたは風の様な人。一瞬まばたきすれば、もういない。

あのオ、お勘定お願いします。大声で叫んだつもりが、鈴虫のため息。「あら、もうお帰りになるの。もうちょっとよろしいやん。」バカメ、知らないのか。さつきから酒を注文する度にテーブルの下指折り数えていたのを。「あなた学生さんネ。」紺の緋に八千代椿の乙女のはじらい。ツゲの小櫛は洗い髪。巷は卒業式前夜とか。

「ハイ。今だ親のスネをかじっています」ゲエツ。クソツ。バカ。今に見ている。もう二度と、いいか、二度とだ。二度と来ないから、こんな店。春だというのに、吐き気こらえておぼろ月。寄るべなき身にうたかたの。泡と消ゆるも、ひたすら恥ゆえに。あの山越ゆれば、タンポポの花一輪。ソツとつぶやいてみて、その声が好きで、好きで。キリギリスの怠慢。黄金虫になりましょう。

息もつまる程抱きしめられ。見上げれば、増の微笑み。井筒の女。いつか、きつと戻って来てくれるって。懐のぬくもりをいだけ、遠い昔の幸わせ。眠りなさい。吹雪の叫びは私の子守歌。あなたの悲しみ、わずらいは私の胸の涙の谷に。水晶のしずく。キラリ、二すじ。いつまでも、待ちたいだけお待ちなさい。誰からも傷つけられず、私の胸の中で。〝瞬間〟は頬を染め、〝永遠〟に握手を求め。これこそ自由。「それこそ無意味。それこそ絶望。」わめき散らすは、かの有名なK氏。ガバツとはね起き、君子危うきに近よらずの桃源境に千年の夢とか。あの山越ゆれば、雪女の誘惑。

誰に遠慮しているのですか。受け取って下さい。この青草原はあなたのもの。正に我が身踊らせん、その刹那。横でカシヤツとシヤツターの音。お先に失礼。もんどり返って飛行機雲ひとすじ、春の空。何よこの人。世間のせの字も知らないで、走って下さい、この青草原を。もはや泣き声。こんにちわ、つくしんぼうさん。一諸に昼寝でもしましょうか。すでに桜の木の下。座を広げ酒宴半ば。うららかに日ざし、やわらかく。我が左腕に長男、抱き上げ。ズボンの裾をしっかりと握りしめるは、ヨチヨチ歩きのかわいい長女。坊や見てごらん。あれがキリンさんだよ。後に、影の如く待るは、わがいとしき妻。幸わせ？ きつと、後悔しないワ。班女のしおる手の指先に、あふれる真紅の羞恥心。恋しくば、尋ねきてみよ日曜の王子動物園。

知っていますか。あの山越ゆれば、花一輪。雪にまみれてたどりつ

き。ヒシと抱きしめ、頬ずりすれば。その可憐な花びらの申すに。「待っていましたのよ。ズツとズツと昔から。あなたを待っていました」タンポポ一輪の信頼。降る雪に袖は濡らさずとも。花びらの落つる涙にしおるる裾は。青き波間に舞い散る木の葉。パンザイその時こそは、その時こそは。我は英雄。大学の教授から橋の下の乞食に致るまでの、美望のまなざしを背に受け。堂々故郷に錦の凱旋門。見て下さい、お母さん。あっぱれ息子の晴れ姿。家人こそりてとまどい顔。あるいは、目に涙を浮かべ憐れみの表情。そんなものドブに捨ててしまいなさい。何の役にも立ちません。せめて卒業証書一枚。ありがたく双手に頂戴し、紋付き袴。しばむ花びら足許に落つれば、耳許に優しき声。〝甘えん坊〟御げば尊とし、数万の学費。ますます我が身小さく。身の置き所も、あわれ昔の部室の片隅。ハイ、としおらしく。床にのの字を三十回。この次は、必ず大きな声でお返事を、その時は。襟を正して、ネクタイ締め直し。ズボンの塵、靴の泥、爪のアカまで、きれいさっぱり洗い落し。スックと立ち上がり。我が頭上には黄金の冠、戴き。左手には盾、打ち倒し。右手には剣、斬りつけ。鋼鉄のくつわ、踏みにじり。あっぱれ孝行者よ。身を立て、名をあげ、いざ励めよ。強く、たくましく、ブルドーザーの前進。新しき門出にはシャンペンの音、高く。拍手/拍手/拍手/拍手/五色のテープ。めぐる盃。偽わりの紙吹雪。桜のつばみふくらむこの花道を。必ず。

四十七年度活動報告

一年をふり返って

B 22 山 口 剛

この一年をふり返ってみますと、まず五月には宇治先生、藤井先生および諸先輩のお蔭で男子用の紋付・袴・襦袢・角帯三人分が揃ったこと、十一月の創立四十周年記念の発表会には大先輩から先輩に至るまで多数の御参加を賜わり盛大に開催できたことが思い起こされます。またその節、永年御指導頂きました宇治先生への記念品贈呈には教官、先輩各層からの絶大なる御協力を頂きましたことに部員一同、心より感謝しています。紙面を借りてここに御礼申し上げます。

私自身としましては、タテの関係では、心の暖かい教官・先輩に接する機会を得、ヨコの関係では、人と人との結び付きを勉強させていただきましたが、何分にも未熟者ですので幹事長という大役を無事果たせましたのも一重に宇治先生をはじめ数多くの方のお蔭です。宇治先生には一年生の十二月からクラブ以外に個人的にも御指導頂いていますので様々なことを教えて下さいましたし、藤井先生には運営につまづきかけたとき、荒川先生を通して御教示を賜わり、

その荒川先生には、私は先生のゼミナールに入れていただいていますので、その厳しいことで経営の学生に有名なゼミナールでしばらくれたあとや、宇治先生の社中の会で御一緒にさせて頂いたときなど懇切な御指導をして下さいました。先輩・現役四年生の方々には、あるときには厳しくあるときには暖かくお導き下さいました。最後になりましたが、三年生の幹事仲間の人達には、火曜日はゼミのため練習には行かれず迷惑をおかけしましたが、それぞれの担当分野はもち論、その他の面でも、私の至らないところを補って常にクラブ運営に協力して下さいました。

次から次へとやってくる発表会の準備に振り回されて指導体制が整わず、一・二年生の人達には充分なことができませんでしたが、とも角こまめであることができました。御恩を受けました皆様方に心より御礼申し上げます。

文化総部活動報告

P 22 横 山 博 江

四十七年も、授業料値上げ反対のストが教養部で行われたものの、まあまあ平和な一年を終えた。大学紛争以来、道を失った小羊のようにさまよい、次第に無気力に、惰性的になっていった文化総部も、徐々に歩み始めた。その新しい試みとして六月二十三日、音楽系サークルによる神大音楽祭が、国際会館で催された。これを契機として、文総・各サークルの姿勢が問い直され、こうした動きを全

学的なものに広げていくためのワンステップとして、四十八年度は四十七年度の神大音楽祭を包括し、展示・シンポジウム等、学生会館を中心に、文化祭を催すことを決定した。これを成功させるべく、現在、実行委員会を結成中です。我が風韻会も、そろそろ歩みかけ始めましたが、私達、学生の、謡・仕舞をやるクラブとして、神戸大学文総の一員として、外の世界にも目を向け、積極的に参加して下さることを望みます。

学連に出る

P 22 加藤 美千代

学連とは？神大と学連の関係は？神大は学連に対してどうあるべきなのか等々、皆さんは考えてみたことがありますか。そういう私の私はどうと……。

それまでは学連の「が」の字も満足に知らなかった女の子が、年二回当時あこがれであったあのピカピカの能舞台で謡い、舞う機会がヒョットしたら与えられるかもしれない場。いつもの発表会では考えられない多くの人達でうまる場所。それは何でも学連とかいう第三者が聞けば必ず「学連／＼全学連？」と連想するであろうところのものが主催する行事だそうだという程度の認識。かつそれ以上は知ろうともしなかった。何故？私のクラブに対する消極的態度ゆえと言いつつ切つてしまえば確かにそれまでだけ……。とにかく、そんな私が初めて中之島にある阪大杏謡会にトポトポと足を向けるよう

になってから一年。「ガクレン、どうだった。」と聞かれれば「学連？それは本当にステキな所よ。皆どうしてあんな素晴らしい場を、色々利用しようとしなかったのかしら。」と昨年までの自分はどこ吹く風、したり顔で嬉しそうに言うであろう。知る人が聞けば何とやらじらしいとあきれかえるような百八十度の転換をした私であった。

ところが学連委員の任期も終りに近づいたある日、ある人から「貴女にとって学連は楽しい場であったかもしれない。貴女の学連に対する認識は深まったかもしれない。でも何故その楽しさを、その認識を神大風韻会全員のそれらにしようとしなかったのか」との批判を受けた。その時の私の頭に浮んだのは、悔い、後悔、失敗、空洞、mortifying 徐々に self-abhorrence ……そして無…。

この一年間いつたい私は何をしてきたというのだろうか。それから十日程して、新旧交代コンパの場で旧執行部の一人がこういうことを言った。「僕達はこの一年連盟の基礎力充実をはかろうと努力してきた。この一年間、少なくとも我々連盟委員どうしは、委員会、リーキャンを通じてより親密になりえたと思う。これが僕達の出发点でもあり、かつ到達点でもあったようだ。悔いはない。むしろ一つの大きな成功だったと思う。」この彼の言葉には、今の学連という組織は学連の本来の目的である能楽の研究、知識及び技術の向上、能楽の普及発展ということの実現にはあまりにも大きくないりすぎてしまった。連盟員一人一人の意志疎通、全体としての団結は今の状態では無理？せめて学連委員の間だけでも……という衷づけがあったように思われた。もっとも先ほどの某氏から受けた神大学連委員としての私の怠慢、そしてその責任からの回避を暗に期待

エーデルワイスの洋菓子とパーラー
ソフトクリームとサンドイッチの

パーラーコイケ

阪神御影駅山側
TEL. (811) 3048



コウベ ヒガシナダ TEL. (851) 3114

した自分勝手な解釈であったかもしれなかったが。
しかし連盟は、執行部だけのものでも、連盟委員だけのものでも決していない。連盟員二百余名全員のものであるべきであるし、かつそうあって当然なのである。学連とは、連盟とはいったい何か——連盟は独立機関か、各パートの従属機関か。各パートが連盟を利用するのか、それとも連盟によってパートは利用されているのか。連盟の理想は？目的は？そして現状は……。
春風に吹かれながら、学連での一年をなつかしく思い出している私の夢。かすみの中でボヤケてゆく……学連。

神戸大学 決算報告書(準備 12/31)

自S. 47年 4月 1日

至S. 47年12月31日

入		出	
今期徴集部費	61,041	先生謝礼	61,000
秋季特別部費	25,000	三大学	34,000
大学援助金	25,000	秋季発表会	49,881
先輩寄付金	108,630	学連	21,500
雑誌"風韻"広告料	22,500	"風韻"印刷費	55,000
園遊会純益	20,525	通信費	19,995
雑収	36,452	文具費	1,514
合宿費	211,280	雑費	11,140
	51,042.8	ハカマ代	57,400
前期繰越金	92,193	普通預金及郵便振替	40,911
		合宿費	211,280
			563,621
		現金有高	39,000
	<u>602,621</u>		<u>602,621</u>

あしあと

昭和四十七年度

★三月

十二日(日) 藤井茂会長並びに第二十回生歓送誼会

於学生会館ホール

宇治先生・荒川・米花・福光先生・伊藤・原・五十嵐・佐々木・湯朝・根岸・田中・川辺・高島・岩本・賀川・武田・武内先輩が出席して下さった。

二十六日(日) 藤井教授定年御退官祝賀誼会

於松泉館

★四月

一日(土) 荒川祐吉教授、会長に就任

九日(日) 宇治風韻会創立五十五周年記念の会

於大槻能楽堂

十三日(木) 新入生オリエンテーション

於六甲台講堂

★五月

四日(木) 第十六回三大学交歓謡曲大会

於山本能楽堂

舞囃子「敦盛」(志智) 「胡蝶」(志岐)

二十一日(日) 学連月並会 於本学学生会館ホール

★六月

三日(土) 古典芸能発表会 於学生会館ホール

十一日(日) 学連春季大会 於上田能楽堂

★七月

二日(日) 四大学合同発表会 於須磨幽仙閣

十一日(日) 学連リーダーズキャンプ 於天上寺

★八月

二十九日(日) 九月五日 夏季合宿 於長野県松原湖

★十月

二十八日(土) 関西大学能楽部自演会賛助出演

於山本能楽堂

二十九日(日) 宇治風韻会創立五十五周年記念の会

於神戸能楽殿

★十一月

十九日(日) 神戸大学風韻会創立四十周年記念

第八回秋季発表会

舞囃子「忠度」(木村) 「舟弁慶」(赤木) 「松風」(三崎)

「融」(横山)

宇治先生・藤井・荒川・米花・木村先生・栗岡(大十卒)

井口(大十一卒) 若林(大十三卒) 内海(昭二卒) 豊島(昭

六卒) 国重(昭八卒) 伊藤(昭十七卒) 江谷(昭三十卒)

原(昭三十六卒) 佐々木(昭三十九卒) 段野(昭四十卒)

牛田 (昭四十四卒) 酒井 (昭四十五卒) 高島 (昭四十六卒)
 岩本 (昭四十六卒) 武田 (昭四十六卒) 河野 (昭四十七卒)
 福田 (昭四十七卒) 中村 (昭四十七卒) 佐伯 (昭四十七卒)
 の御出席を頂く。(教官四名、先輩二十名)

二十六日 (日) 園遊会模擬店出店 於六甲台キャンパス
 ★ 十二月

十日 (日) 学連秋季大会 於上田能楽堂
 舞囃子「班女」(加藤)
 二十四日 (日) 宇治風韻会思い出の謡会 於風韻楽堂

本年度稽古曲目
 「小督」「雲雀山」「班女」「吉野天人」「土蜘蛛」「合浦」

幹事長就任にあたって

E 23 浦田 理一郎

此度、次期幹事長を引き受けるにあたり、先ず、諸先輩方にお断りしなければならぬ事があります。というのは、おそらく私は、長い風韻会の歴史の中でも初めての留年生幹事長であるだろうという事です。今般の私の就任は如何に現在の風韻会に於いて人材が払底しているかということを実に物語っています。斯様な現状を鑑み、来年度の運営方針の第一と致しましては、先ず、部員の確保(現在十七名に加うることに十名を目標)、第二に部内に厳しさと親

しさを、の二点を考えています。紛争以来、大学内に於ける学生同志のコミュニケーションが少なくなつた昨今、せめて一サークル内なりとも人間関係の親密化を図りたいと思つています。

此様に考えていきますと、私の様な非才の者が大層立派な言葉を並べている様ですが、俗に馬鹿と鉄は使い様と申します。私も、宇治先生、顧問教官並びに数々の先輩方、そして部員諸氏の御鞭達と御督励を受けまして、この一年間を、常に前向きな姿勢で、神戸大学風韻会の発展・進歩の為に力を尽くそうと決意しております。度々諸先輩方々に御指導と御援助を抑ぐ事になるやもしれません。御多忙の折、御迷惑では御座居ましようが何卒御協力下さいます様御願ひ致しまして幹事長就任の挨拶にかえさせて頂きます。

〔新役員紹介〕

幹事長	E 23	浦田 理一郎
会計	P 23	藤枝 聡司
渉外	M 11	児島 新
広報	B 24	加藤 久佳
渉外補佐	B 24	加藤 久佳
会計補佐	P 24	森 章子
学連委員	P 24	木村 升治
文総委員	P 24	山崎 喜美子
学連委員長	J 23	寺本 博行

編集後記

四十周年記念号というわけで、大先輩及び中・小先輩の原稿を多く集めようとしたが、我々の努力不足のため、このようなものにならなかったのが、残念である。又、宇治先生の御風邪のため、先生の原稿もいただけず、荒川・藤井両先生との座談会も都合が悪く、できなかった。この点に関して読んでいただく方々に、深くお詫びする次第であります。

尚、風韻会名簿を作成するため、先輩方々に御迷惑をおかけいたしました。尚、財政困難のおり、多大な御寄付も霧のごとく失せてしまい、変更分のみ掲載させていただきました。

従って、四十周年記念号としては、まことに粗末なものとなりましたが、ここに「風韻」第十三号を発行させていただきます。

最後に原稿をお寄せ下さった方々に、誌上からではありませんが、お礼を申し上げます。

淡雪は降れど積らぬ六甲の山

四年の夢も晴れず 春風

昭和48年 5月31日 印刷
 昭和48年 6月5日 発行
 発行所 神戸大学 風韻会
 神戸市灘区六甲台町
 印刷所 みなと出版印刷株式会社
 神戸市灘区浜田町2丁目5の3
 電話 821-8331(代)

雑誌からコピー印刷まで……

みなと出版印刷(株)
 阪神新在家下車東150米高架下12-11
 TEL.(078)821-8331(代)

コトブキ 三宮ビルでデッカクやろう!!



コンパ、お友達とのパーティ等あらゆるご会合、ご宴会にコトブキ三宮ビルをご利用ください。

6F	大小宴会場
5F	すき焼
F	しゃぶしゃぶ
3F	お座敷焼肉

ご宴会のお問い合わせは外商課(宴会係)まで
コトブキ三宮ビル
 阪急三宮西口 TEL.(078)391-8681